

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	販売量の動き	・例年はないほど寒く、雪も多かったことから、防寒靴や手袋・マフラーなどの軽衣料などが良く売れたほか、観光客には靴のすべり止めなども売れた。また外出頻度が落ちたこともあり、灯油の取扱量も10%程度増加した。全体的に、寒さに対応するための必需品の販売量が伸びており、前年を10～15%上回っている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・年末から来客数が微増で推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比較して販売量は減っているが、日曜が1日多かったこともあり、前年比は104.7%とやや良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・1月半ばから来客数が増えてきている。ただ、低価格志向は相変わらずであり、売上が一気に好転するところまでは至っていない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・例年1～3月期は前年10～12月期よりも客が活発に住宅を探す時期であり、来客数が多少増加することになる。今月も、3か月前と比べて客の動きが良くなっている。ただ、2008年以前と比べると、来客数は半分以上に減少している。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・依然として来客数の動きに回復傾向がみられない。前年を10%下回る状況が続いている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・依然として客の買い控えがみられる。冬物のバーゲン時期ではあるが、客は更に値段が下がるのを待っている様子であり、単価の低い物しか売れない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、安い物を必要な量だけ買うという傾向がますます強くなってきている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・最近の政権与党を巡る報道の影響で、これまでの期待感が薄らいできており、それに伴い客の消費行動も自己防衛に向かっている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量は横ばいか心持ち上回っているが、一進一退の状況が続いていることから、まだ良くなっているとは言い難い。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・買上客数は前年比98%前後であり、11～12月と同じような数字で推移している。客単価も前年比95%前後で変わらない。食品は健闘するものの、呉服・宝飾・衣料品が苦戦している。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・買上客数が増加しており、客単価は低いものの購買につながってきている。今まではやや悪い状況にあったが、今月に入り多少の回復傾向を感じる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年より5%近く低下している。来客数や買上点数は伸びているが、客単価の低下分まではカバーできていない状況にある。客の生活防衛意識に変化はなく、割引セールに客が集中する傾向が強まっている。
スーパー（企画担当）		来客数の動き	・年末年始商戦はまずまずの客入りであったが、正月までの買い疲れからか、松の内明け前後からの落ち込みが大きく、足元の状況としては、例月と同様の厳しい状況に戻っている。	
家電量販店（店長）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果による特需が引き続きみられる。		
家電量販店（店員）	単価の動き	・今月もエコポイント制度の効果で薄型テレビがよく売れている。しかしながら、白物家電に伸びがみられないことから、全体で前年を上回ることにはなかった。		
家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・相変わらず薄型テレビは好調であるが、その他の大物家電は不調が続いている。全体としては、ほぼ横ばいの状況である。		
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・環境対応車の補助金制度の延長により、様子見の客が多く、売上が増えてこない。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・相変わらず車関連の高額商品が売れない。		

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年、この時期は年末の反動から厳しい時期であるが、低価格のイベントを4回行ったところ、思った以上の来客がみられた。デフレ傾向と言われるが、それなりのメニューは価格を少し下げただけで客の反応も良く、客単価は3%低下したものの、全体の売上は前年を20%上回った。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・新年会の様子を見ると、今月前半は動きが鈍く、客の入りも悪かったが、後半になると動きが出てくるようになり、少しは活気を取り戻した。
	観光型ホテル (経営者)	お客様の様子	・客の入込状況を地域別にみると、相変わらず道外、関東圏が冷え込んでいる。一方、海外客については増加傾向にある。中国が依然として伸びているほか、韓国も復調している。しかしながら、売店などの売上や消費単価の動きをみると、客の消費マインドはいまだ冷え込んでいる。
	観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊商品全般で価格が下げ止まりつつあるが、インターネット販売の商品はいまだに低価格傾向にある。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・関東のテーマパークが堅調に推移しているが、海外旅行が低迷している。また、法人需要も伸び悩んでいる。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・1月は国内旅行が前年比77%、海外旅行が前年比90%となっており、前年5月以降、前年割れの状態が続いている。関東のテーマパークはキャンペーン期間が2倍に伸びたにもかかわらず、売上が前年の半分となっている。特に冬休みのファミリー層の動きが極めて鈍くなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月は雪が多く、寒かったこともあり、3か月前に比べると売上が10%以上増加している。しかしながら、好調だった売上も月末になると落ち込んでおり、全体としては変わらない。
	タクシー運転手 通信会社(社員)	来客数の動き お客様の様子	・相変わらず電話注文数、来客数とも減少している。 ・景気以前の問題かもしれないが、テレビ・インターネット・電話などにおいて、現在の支出額を減らすことのできるサービスを提案しても、とりあえず現状維持を選択する傾向に変化はみられない。
	通信会社(企画担当)	販売量の動き	・冬商戦における新商品の売行きが期待ほどではなかったが、旧商品の売上が伸びたことから、全体としては変わらない。
	観光名所(役員)	来客数の動き	・観光入込の動きをみると、国内客は団体を中心に依然として低迷しているが、台湾や韓国からの海外客がここにきて健闘しており、全体としては底を打った感がある。
	その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】(従業員)	来客数の動き	・観光閑散期であり、全体的な状況に変化はみられない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・客の出控えもあり、商店街を訪れる来街者は3か月前と比べて減少している。時期的な要因もあるかもしれないが、特に駅から商店街へと流れてくる買物客の減少が著しく、近郊の街から訪れる客が少なくなっていることがうかがえる。
	スーパー(店長)	単価の動き	・年末年始の来客数は、衣料品売場、食品売場、住居余暇品売場とも前年を上回ったものの、客単価の低下により、売上が前年実績に届かない状況にある。特に食品は買上点数が何か1点減らされており、節約している様子がうかがえる。寿司、刺身などの単価の高い商品も極めて動きが悪い。
	スーパー(役員)	単価の動き	・全社ベースでの既存店の売上は、どうにか前年比100%を維持できているが、前年並みを維持することが難しくなってきた店舗が増加している。商品単価が前年から低下している一方で、客1人当たりの買上点数が前年を上回っていることから、客単価は前年を1.1ポイント上回っているものの、来客数は前年を1.1ポイント下回っている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・前月に引き続き、客単価の低下がみられることに加えて、今月に入り、買上点数の減少もみられるようになってきた。

		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・年末から客単価が前年を3%下回っている。1月に入り、たばこやビールの販売量も減少している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・冬物衣料の動きが鈍い。客との会話からは、更に落ち込むような雰囲気もうかがえる。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・商品単価が低下していることで、客1人当たりの買上点数が増加している傾向があるものの、来客数が減少しているため、売上としては苦戦している。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・年末需要が落ち着いたこともあり、例年通り3か月前に比べると売上は減少している。前年比もほぼ前年並みの水準で推移している。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	販売量の動き	・十分なアドバイスができていないせいか、客からの問い合わせが減少しており、販売量も減少している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・平日の客の入込が悪かったものの、週末が前年以上の来客数となったことから、全体では前年並みとなった。また、年金を受給している客からは、お金があるので外食したいが、仲間の財布のひもが固くなっており、集まりにくいとの話を聞いている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・インターハイと国体の効果で宿泊客が増え、それに伴い朝食と夕食でのレストラン利用が増えたが、昼食での利用が前年の86.5%と極端に落ち込んでいる。
		観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・来客数が継続的に落ち込んでいることに加えて、インターネット商品を含めて、全体の宿泊単価が低下傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・サービス業全体で、安価な商品造成が目立つが、必ずしも需要喚起にはつながっていない。逆に消費者の値ごろ感を下げ、収益性を悪くしている傾向にある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・海外客、国内客とも利用が減少している。円高や国内景気の低迷が原因であり、来客数は3か月前の40.8%にとどまっている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・本来、白髪染めは髪が伸びてくると目立つため、客の来店周期が短いものであるが、最近は髪が伸びても我慢する客がかなり増えている。全体的にパーマ、カットなども客の来店周期が長くなっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・個人住宅に関しては、全く動きがみられない。問い合わせ件数も激減しているが、たとえ問い合わせがあっても、その後の反応が鈍く、受注につながらない。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・前年もそうだったが、消費者の購買意欲が更に低下している。季節商材の価格を下げて客の反応が悪く、セールを行っても反応が鈍い。まさにデフレスパイラルに入り込んだように感じる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新年会などでのタクシー利用の増加を期待したが、週末の人出が前年よりも少なく、売上も前年を10%程度下回っている。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅の着工数が大幅に減少している。今後の回復見通しが立たないほどの厳しい状況にある。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	金融業（企画担当）	それ以外	・観光業、スーパー・百貨店など、個人消費関連の業界は不振である。また将来不安から住宅建築が減少基調にあり、関連業界の家具製造業、製材業なども厳しい。一方、土木建設業、家電販売、乗用車販売は景気対策効果が持続していることから堅調に推移している。持ち直しているのは一部の業界にとどまるが、全体的にはやや良くなっている。
		その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注額が前年を上回っており、3か月前よりもプラス幅が拡大している。
	変わらない	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏の百貨店や大手ハウジングメーカーからの受注が底堅くなりつつあるものの、請負物件については、いまだに需要が低迷している。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年実績と比べて受注量及び販売量が減少しており、数か月前と比べて景気が上向きになっているとは感じられない。

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・前年の製紙業界は前年比20%の減産となるなど、100年に1度の激震の年であったが、今年は各工場の操業率の変化があるものの、全体では前年並みで推移している。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・多くの取引先から、景況浮揚のきっかけが全く見えないとの話を聞いている。また政府の景気対策の遅れや消極性もあり、景況感は悪いままの状態が継続している。	
	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （役員）	取引先の様子	・公共事業を行っている一部の業界は活況だが、それ以外の業界の仕事量は極端に少なく、消耗資材ですら都度の購入となっている。特に建築関連の落ち込みが目立っている。	
やや悪くなっている	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・低価格の食料品や衣料品等の消費ニーズは強いものの、周辺の製造業の受注量を見ると、前年を10%ほど下回っている。	
	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量の減少傾向が続いており、1週間先の製造予定を埋めることもできない。	
	出版・印刷・同関連産業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・今まで以上に価格に対する目が厳しくなっている。	
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・これまでの建築工事の入札では、官民を問わず、建設会社が低価格応札に殺到していたが、最近は低価格で受注する余力を失ったのか、入札しない会社が増えている。	
	司法書士	取引先の様子	・企業の売上減少などに伴い、給与が横ばい、もしくは減少していることから、長期間の支払が必要な土地の売買や住宅の新築などを先送りする傾向が続いている。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・業務の縮小を始めている。未確定案件が反故になるケースが増え、受注が確定するまで作業に入れないため、最小限の人員しか残せない状況となっている。	
悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年明け後の荷動きが過去最低となっている。	
	司法書士	取引先の様子	・住宅新築の話が少なく、その前提となる土地売買もみられない。	
雇用関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	-	-	
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・小売販売関係の求人は微減だが、飲食・製造関係は微増で推移している。全体としては前年並みとなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年に比べて求人情数が微増しているが、決定率の低下によるリピート求人の多さが大きな要因の1つに上げられる。前月や前々月と同様にコールセンターの求人は目に見えて増えているが、その影響で他業種の事務系の応募率が低下している。飲食店の求人は前年11月ごろに底を打っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上をみると、前年比89%となっており、前月の72%よりは改善したものの、相変わらず前年割れが続いている。特に稼ぎ頭である派遣の落ち込みが厳しく、前年比52%と半減している。そのほか、飲食が前年比57%、土建不動産が前年比70%と大きく減少している。一方で、医療系が前年比130%、流通・環境衛生が前年比120%と伸びた職種もみられたが、派遣の落ち込みがそれ以上に大きく、ばん回できなかった。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の有効求人倍率は0.34倍で前年から0.01ポイント低下し、14か月連続で前年を下回った。ただ、新規求人数は前年を1.8%上回り、わずかではあるが増加した。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・12月の新規求人数は前年を0.4%下回った。新規求職者数は前年を4.5%下回った。月間有効求人倍率は0.35倍となり、前年の0.37倍を0.02ポイント下回った。	

	学校〔大学〕 (就職担当)	周辺企業の様子	・就職環境において、例年であれば今年度の卒業生と来年度の卒業生の動きが交錯する時期であるが、企業側の2010年採用は多くが終わっており、大学側としては求人紹介などの指導すべき情報が少ない。
やや悪く なっている	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から10.1%減少し、2か月ぶりに前年を下回った。月間有効求人数は前年から7.7%減少し、38か月連続で前年を下回った。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・12月の新規求人数は前年を30.7%下回った。有効求人倍率も0.32倍と前年を0.09ポイント下回り、30か月連続で前年を下回った。
悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・優秀な人材がいれば採用を考える、いわゆる潜在求人は多数存在するが、どの企業も表向きは採用を完全に手控えている。役所からの受託事業で企業に求人の有無を確認しているが、確認した8割の企業で求人はないという回答であった。企業経営の厳しさが読み取れる。





あ